

[043] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10228>

出版情報：語文研究. 43, 1977-06-01. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

学生会報

▼講義題目 昭和51年度第1学期

(大学院)	国語学特研	国語学詞—詞の八衢—	春日	教授
(大学院)	演習	国語学資料の研究	春日	教授
(大学院)	特講	古代日本語の研究 —位相語に関して—	春日	教授
(学部)	演習	万葉集卷十一	春日	教授
(大学院)	特研	平曲譜本の研究	奥村助教	教授
(大学院)	演習	国語学の諸問題	奥村助教	教授
(大学院)	特講	国語史と方言研究	奥村助教	教授
(学部)	演習	近世語	奥村助教	教授
(大学院)	国文学特研	平安朝文学の諸問題	今井	教授
(大学院)	演習	「古今六帖第五」	今井	教授
(大学院)	特講	平安朝文学史 —物語と伝奇—	今井	教授
(学部)	演習	源氏物語 浮舟卷	今井	教授
(大学院)	演習	浮世草子	中野助教	教授
(大学院)	特講	近世文学の背景	中野助教	教授
(学部)	演習	西鶴	中野助教	教授
(大学院)	特研	現代文学史の諸問題 教養部	重松	教授
(大学院)	演習	近代文学史の諸問題	重松	教授
(大学院)	演習	近代文学作品研究	重松	教授
(学部)	特講	中世芸能の研究	佐賀大教授	米倉講師

昭和51年度第2学期

(大学院)	国語学特研	国語学史「詞の八衢」	春日	教授
(大学院)	演習	国語学資料の研究 (日本書紀古訓)	春日	教授
(大学院)	特講	古代日本語の研究 (位相語と文章)	春日	教授
(学部)	演習	万葉集卷十二	春日	教授
(大学院)	特研	平曲譜本の研究	奥村助教	教授
(大学院)	演習	国語学の諸問題	奥村助教	教授
(大学院)	特講	国語学史	奥村助教	教授
(学部)	演習	近世語	奥村助教	教授
(大学院)	国文学特研	平安朝文学研究の諸問題	今井	教授
(大学院)	演習	大和物語	今井	教授
(大学院)	特講	源氏物語研究史	今井	教授
(学部)	演習	「とりかへばや物語」	今井	教授
(大学院)	国文学特研	文人主義の研究	中野助教	教授
(大学院)	国文学演習	浮世草子	中野助教	教授
(大学院)	特講	近世文学史概説	中野助教	教授
(学部)	演習	西鶴「万の文反古」	中野助教	教授
(大学院)	特研	現代文学史の諸問題 教養部	重松	教授
(大学院)	演習	近代文学史の諸問題	重松	教授
(大学院)	演習	近代小説作品研究	重松	教授
(学部)	特講	中世芸能の研究	佐賀大教授	米倉講師

▼昭和51年度卒業論文・修士論文題目

学部

中原中他

「普賢」について

夏目漱石「吾輩は猫である」論

源氏物語第二部における「女人受苦」について

泉鏡花の初期作品について―化鳥とその周辺―

「津軽」論

都良香論

原采蘋―詩と酒の生涯―

昭和期における谷崎の歴史物語―戦国物をめぐって

谷崎、晩年の主題―「瘋癲老人日記」を中心として―

源氏物語「大君造型」―結婚拒否をめぐる―

小林多喜二における女性像

文人上田秋成と煎茶

「風立ちぬ」論

能狂言における待遇表現

修士

「新撰字鏡」についての研究―和訓を中心として―

中島広足の研究

▼昭和51年度九州大学国語談話会

昭和51年7月17日

於国語学国文学研究室

万葉集における濁音表記

名古屋の洒落本

いわゆる「曖昧アクセント」について

稻川 順一

▼訪書旅行昭和51年10月4～8日

三年生15名・修士一年2名が天理図書館を訪問。

た。春日先生、中島助手が引率。

奈良等を訪れ

大平 和男

小泉 力也

荒木 久子

酒井 雅子

佐藤しおり

白石 京子

中条 順子

飛永 恭子

林田 美紀

古田 秀子

前田 睦子

増田 朋子

森井まさ子

山下さえ子

坂口 至

高瀬 正一

白石 良夫

崎村 弘文

矢野 準

(10)

物語の筋立ての上から完成が急がれたであろう六条院（着工から完成迄約一年であるが、その間は、小学館本で約二頁にすぎない）は、別として、東院にやや遅れて造営される嵯峨野の御堂は、着工が、源氏三十一歳の春（山里ののどかなるを占めて、御堂造らせたまふ・綜合）で、同年秋には裝飾の段階に入っており（御寺にわたりたまうて……堂の飾、仏の御具などめぐらし仰せらるる・松風）、翌年正月（近き御寺・桂殿などにおはしまし紛らはしつ……薄雲）には、完成してと見るべきだから、物語の流れの中に適切に挿入されている。東院の場合は、これに比べると不在の感は否めない。

(11)

後述する如く、蓬生巻に東院関係の記事があるが、蓬生は濡標の並びの巻であり、年立上は、濡標巻五月の記事よりも溯った時点のものとなる。

(12)

注(9)論文
猶、森藤氏は、明石の君の心情に即するため作者はやむを得ず東院の完成を延期した、とされるのであるが、私は、その様に作者が引きずられた形ではなく、作者によって明白な目的を持って行なわれたものであると、後述の蓬生巻の記述から考へる。

(13)

『源氏物語の研究』第四章第二節

(14)

『源氏物語正篇の研究』所収

(15)

句宮三帖別筆説に従えば論拠とはなり得ないであろうが、三帖のうち他筆説が最も強かった竹河巻が、今井原衛先生によって大きな疑問が投げかけられており（竹河巻は紫式部原作であろう）（七）（『文学研究』第七十二輯）同（下）（『語文研究』第三十九号）√少くとも句宮巻においては、同筆説を取るのが妥当であろう。

(16)

若菜上巻に、臘月夜を訪れるため、源氏が紫の上に向かつて、「東の院にもする常陸の君の、日ごとわづらひて久しくなりにけるを、ものさわがしき粉れにとぶらはねば、いとほしくなん」（IV七二）と、外出の口実を言う場面がある。

(17)

この点に関しては、池田義孝氏の説に従うべきであろう。

(18)

「明石の上の腹なる少女を紫の上贈ひて子として養ひ、生母はわが子の行末を思ひて、離れるたき愛情を割く、この間の消息写し得てあはれなり」（『国文学史』（平安朝篇）第三期第八巻）

(19)

創元社版日本文学新書『源氏物語（上）』一五一頁

(20)

『源氏物語評釈』第四巻、四七二頁

受贈雑誌（昭和五十一年六月～昭和五十二年四月）①

- 愛文（愛媛大学） 12 / 跡見学園国語科紀要 24 / 碑 29 / 愛媛国文研究 26 / 愛媛大学法文学部論集 9 / 演劇博物館収蔵品図書目録 18 / 大阪府立大学紀要 23 24 / 大谷女子大國文 6 / 王朝文学 19 / 岡大國文論稿 4 / 沖繩国際大学文学部紀要 4 巻 2 号 5 巻 1 号 / お茶の水女子大学音楽研究 2 / 音声学会会報 152 153 / 香川大学国文研究 1 / 学苑 421 / 園論集 29 / 学術研究（早大教育） 25 / 香椎瀧 22 / 金沢大学教育学部紀要 25 / 金沢大学教養部論集 13 / 金沢大学法文学部論集 23 / 金沢文庫研究 22 巻 4 5 6 7 · 23 巻 1 / 関西大学文学論集 26 巻 1 / 京都教育大学国文学会誌 13 / 近世文芸稿 21 / 近世文芸ノート（牛王の会） 2 / 肇国 396 / 月刊文献ジャーナル 15 巻 6 7 8 9 10 11 12 · 16 巻 1 2 / 研究紀要（大阪大学医短） 9 / 大阪城南女子短大研究紀要 11 / 研究紀要（京都家政短期大学） 15 / 北大古代文学会研究論集 3 / 皇学館論叢 9 巻 3 4 5 6 / 語学文学（北海道教育大学語学文学会） 14 / 国学院雑誌 77 巻 6 7 8 9 10 11 12 · 78 巻 1 / 国学院大学日本文化研究所報 12 巻 3 4 · 13 巻 1 2 3 4 6 / 国語学研究（東北大学） 51 / 国語学研究与資料（早稻田大学） 1 / 国語国文（京都大学） 45 巻 5 6 7 8 9 10 11 12 / 国語国文学報（愛知教育大学） 30 / 国語国文学研究（熊本大学法文） 11 / 国語国文論集（学習院女子短大） 6 / 国語と国文学（東京大学） 53 巻 7 8 9 10 11 12 · 54 巻 1 2 3 / 国文（お茶の水女子大学） 45 46 / 国文学研究（早稲田大学） 60 61 / 国文学研究ノート（神戸大学研究ノートの会） 7 / 国文学資料館報 7 / 国文学叢（広島大学） 70 71 72 73 / 国文学論集（山梨大学） 14 / 国文学論集（上智大学） 9 10 / 国立国語研究所年報 27 / 国立国語研究所報告 56 / 古典と民俗（関西学院大本位田研） 3 / 語文（日本大学） 41 / 語文研究 42

㉒ 平曲、文明本館用集等の読みと一致するという点、いかに解すべきか。

㉓ 日本古典文学大系『近松浄瑠璃集』下巻解説。

㉔ 小学館日本古典全集『近松門左衛門集』(一)の凡例。その他、日本古典文学大系『仮名草子』の補注仍p等

㉕ (山崎) (23ウ) には「神仏とつゝふ」とあり、印をつけた「と」は「と」の誤りと思われる。別本、富松藤摩揀七行44丁本により訂正。

㉖ この方面の研究としては、松本宙氏「マ行音バ行音交替現象の傾向」(国語学研究所5)同、「キリシタローマ字資料におけるマ行バ行交替現象の実態」(文学研究42)等がある。

㉗ 前記大系の解説では、「ぶ」とかいて「む」とよむことの典拠を仮名遣書に求めているのであるが、思うに仮名遣書というものは、人々に正しい(㉑)仮名遣の意識がない、あるいは、仮名遣が乱れているために、それを正そうとして作られるものであるから、前記の典拠にそれをもつてくるのはいかながなものであろうか。

むしろ、それらの仮名遣書というものは、どちらか一方のよみがなされたというのではなくて、かえて二通りのよみが行なわれていたということの証拠になるであろう。『片言』などに見られるものはまさにそれである。

㉘ 「注釈の原点」(文学昭和四十五年四月号。)

㉙ 岩波講座日本文学所収「近松浄瑠璃の国語学的研究」

受贈雑誌 (昭和五十一年六月〜昭和五十二年四月) ②

語文論叢 (千葉大人文) 4 / 滋賀大國文 14 / 実践国文学 10 / 淑徳国文学 18 / 樟蔭国文学 14 / 抄物研究 (小林国語研) 2 / 抄物の研究 (愛

媛抄物研) 3 / 女子大國文 (京都女子大学) 79 80 / 人文科学 (同志社大学人文科研) 2 卷 4 / 人文学報 (都立大学) 117 / 千葉大國文研究 5 / 人文研究 (神奈川大) 64 65 / 清泉女子大國文紀要 24 / 成蹊大國文学部紀要 12 / 青踏女子短期大学紀要 6 / 東京女子大学日本文学 43 44 45 / 専修国文 20 / 高崎経済大学論集 19 卷 1 2 3 / 玉藻 (フェリス学院大学) 12 / 中世文学研究 (中四国中世文学研) 2 / 中世文学論叢 (東京学芸大中世文学研) 1 / 同志社国文学 12 / 東洋学研究所 (東洋大学東洋学研) 10 / 東洋大学大学院紀要 12 / 都立大学方言学会会報 70 71 72 / 都大論究 (都立大学) 12 / 富山大学国語教育 1 / 富山大学教育学部紀要 24 (分冊) / 名古屋大学国語国文学 38 39 / 並木の里 12 / 南山国文論集 1 / 新潟大学国文学会誌 20 / 日本学術会議月報 17 卷 5 6 7 8 9 10 11 12 / 18 卷 1 2 / 日本古典文学会々報 45 / 日本文学研究 (高知日本文学研) 14 / 日本文学研究 (大東文化大学) 16 / 能研究と評論 (月曜会) 6 / 白路 31 卷 7 8 9 10 11 12 / 32 卷 1 2 3 / 植生野国文 (四天王寺女子大学) 7 / ビブリア 63 64 65 / 福島大学教育学部論集 27 の 2 / 藤女子大学国文学雑誌 19 20 / 文化 (東北大学文学会) 40 卷 1 2 / 文学史研究 4 / 文学年誌 (文学批評の会) 2 / 文学論藻 (東洋大学文学紀要) 51 / 鹿児島大学文科報告 12 / 文教国文学 (広島文教女子大学) 5 / 文芸研究 (東北大) 82 83 / 文芸と批評 4 卷 6 7 / 文芸論叢 (大谷大学) 7 / 文芸論叢 (立正女子大学短大部) 12 / 文莫 (鈴木腹学会) 1 / 別府大学国語国文学 18 / 方言研究年報 (広島方言研究所) 続 1 / 万葉 92 93 / 美夫君志 19 20 / 武庫川国文 10 11 / 明治大学日本文学 7 / 野州国文学 (国学院大学栃木短期大学) 17 18 / 山辺道 (天理大学) 20 / 立命館文学 367 / 文学研究 (九大) 74 / 国語学 105 106 107 108 /

らぬ御関心と御見識の高さを、改めて深く感じたことであった。

(大内記)

受贈図書 (昭和五十一年四月～五十二年三月)

日本文芸論集 (北住敏夫教授退官記念)

東北大学文学部
国文学研究室

歌学資料集成 (静嘉堂文庫所蔵)

雄松堂
新典社

十六夜日記

新典社

百人一首 (兼載筆)

〃

近代秀歌

〃

源氏物語修紫田舎源氏比較論攷

佐藤 包晴

日本庶民文化史料集成 第八卷

三一書房

古訓古事記 (訂正)

新典社

金槐集 (市立函館図書館蔵)

〃

方丈記 (影印本)

〃

御所本三十六人集 (宮内庁書陵部蔵) 2 5 15 21 24 卷 (解説共)

〃

百人一首 (影印本)

〃

日本散文選

〃

日本文学史 (作品中心)

〃

日本詩歌選 (改訂版)

〃

近代女流の文学

〃

とほすがたり

〃

芭蕉・近松・西鶴

〃

出世景清 (大倉文化財団蔵浄瑠璃本)

〃

古今和歌集

〃

小倉山庄色紙和歌 (百人一首古注)

新典社

懷徳堂文庫図書目録

大阪大学文学部

契沖全集 第16巻

岩波書店

かたこと (笠問還書53)

白木 進

詩語解・文語解並に索引 (釈大典)

中村 宗彦

国文学研究文献目録 (昭和48年)

国文学研究資料館

山口福岡両県接壤地域言語地図集

岡野 信子

国語史資料集

春日 和男

みみらく史考

入江 孝也

とりかへばや 1~4 (解説共)

(新典社版原典シリーズ)

10 11 17 18)

今井 源衛

芭蕉と奥の細道とところどころ

小島 吉雄

近世演劇論集

横山 正

九州のコトバ

吉町 義雄

全人的 (歌集)

手島 一路